

2026年7月

of Scouts

どこまでも、
広がる僕らの冒険記



CONTENTS

- 02 ようこそ、ボーイスカウトの世界へ！
- 03 全国で開催されている
ボーイスカウトの活動体験記
- 17 BRAVELY
新たな挑戦へ、一歩踏み出そう。
第26回世界スカウトジャンボリー
- 17 カンダーシュテーク
夏季野営スタッフ派遣員任命式
- 18 未来へつなぐ奉仕——
大阪・関西万博の舞台で輝いたスカウトたち
- 20 めざせ、ポケモントレーナー！
- 21 ジャンボリーの魅力ってなに？
過去大会の参加者に聞いてみました。
- 22 2025（令和7）年度【第44回】
富士スカウト代表表敬
- 22 スカウトの日
出動！キラまち隊！～人と地球によりよい
未来を～
- 23 Scout UP!
全国のスカウト活動を支える情報基盤
必要な情報を、必要な人へ
- 24 # 今、子どもたちの「体験」に
何が起きているのか？
——「体験格差白書2025」から見える、ひ
とり親家庭の現実と私たちの使命——
- 26 スカウト活動を通して成長した
若手リーダーが社会でどのように
活躍しているかインタビューしました！
- 28 私たちの運動は皆様に支えられています
- 30 未来を照らす冒険に、あなたの力を。
- 31 公益財団法人として信頼される
ガバナンス体制に基づく健全な
財務運営

ようこそ、 ボーイスカウトの世界へ！

Compass of Scouts とは

私たちボーイスカウトは、人と地球によりよい未来をつくる、世界最大級の青少年教育運動です。

広報誌 Compass of Scouts では、ボーイスカウトのことをご存知でない方々にもわかりやすく、全国各地でのバラエティーに富んだ活動、そして多様な体験活動の機会についてお伝えすることを目指しています。

ボーイスカウトの世界では子どもたちの年齢に応じて、成長段階を考慮した5つの部門で活動を展開しています。男女問わず、全国各地で活動中です。私たちは野外活動を中心とした各種プログラムを通じて、多くの体験と成長の機会を子どもたちに届けています。ここでしか学べないスキルと体験から、子どもたちの「生きる力」と「活きる力」を育むことができます。

小学1～2年生
ビーバースカウト

小学3～5年生
カブスカウト

小学6～中学3年生
ボーイスカウト

中学3年生～18歳
ベンチャースカウト

18歳～26歳
ローバースカウト

社会に役立つ人材に

遊びから体験し、学ぼう

冒険し、チャレンジし、学ぼう

社会の役に立つ経験をしよう

自立心を育み、社会の一員へ

広がる国際交流の機会

スカウト活動で
できること

イギリスで始まったボーイスカウト運動は世界に広がり、日本での歴史も100年以上となりました。そんなボーイスカウトの活動は全国各地のボランティアの方々によって支えられ、今では世界176の国と地域で6,000万人以上が活動しています。※2025年12月現在

私たちの活動は子どもたちの好奇心と成長、それを支えるボランティアの方々の熱意によって100年以上のバトンを繋いできました。私たちは、人や社会のため、地球のために行動できる人材を育て、社会に送り出すことを目指しています。



そんな私たちボーイスカウトの、未来を照らす活動の世界を、ぜひのぞいてみてください。

人と地球によりよい未来を

全国で展開されている ボーイスカウトの活動体験記

2025年度に全国各地の団で展開された活動体験記をご紹介します。大自然を舞台にした冒険や地域社会への貢献、そして国際交流まで、スカウトたちが仲間とともに一步を踏み出した、成長のストーリーをお楽しみください。



お住まいの地域の活動拠点はどこ？

日本連盟の Web サイトでは全国の活動拠点を検索することができます。あなたの
お住まいの地域の活動拠点を探してみましょう！ 活動体験の申し込みも可能です。

<https://www.scout.or.jp/team>



宮城

見える景色が変わった日 ～初めての乗馬ハイキング～

宮城県連盟 岩沼第1団 カブ隊副長 上女鹿 有

2025年10月5日(日)、秋晴れの爽やかな空の下、カブ隊の仲間たちと「乗馬ハイキング」を実施しました。今回の目玉は、なんといっても大きな馬とのふれあいです。

亘理町にある乗馬クラブ「ホースランドわたり」さんにお世話になりました。今回は親交の深い石巻第6団もお招きして、スカウト7人、指導者3人、保護者2人、合計12人が参加しました。

最初は自分たちの体よりもずっと大きな馬を前に、スカウトたちは少し緊張気味でした。しかし、いざ鞍にまたがり、ゆっくりと歩き出すと、視線は一気に高くなります。表情がパアッと明るくなり、「いつもより遠くまで見える!」「馬の背中が温かい!」といった驚きと喜びの声が次々に上がりました。

馬の揺れにリズムを合わせながら進むハイキング道では、普段の徒歩とは違う景色や風の音を感じることができました。道中、馬の耳の動きを観察したり、「ありがとうね」と言いながら優しく首筋を撫でたりと、言葉の通じない動物と心を通わせようとするスカウトたちの表情は真剣そのものでした。命の尊さや力強さを肌で感じる、貴重な学びの時間となりました。

この経験を通じて、自然への感謝と、新しいことに挑戦する勇気をまた一つ積み上げたスカウトたち。これからも、五感をフルに使った活動を大切にしていきたいと思います。





宮城

困難を乗り越えて深まる絆。 つばの滝沢キャニオニング！

宮城県連盟 名取第1団 ボーイ隊副長 布田 宗久

宮城県連盟名取第1団ボーイ隊です。私たちは2025年7月20日(日)、夏キャンプのメインアクティビティとして、スカウト15人で「キャニオニング(沢下り)」に挑戦しました。目的地は蔵王自然の家近くの「つばの滝沢」です。

前日から入念な準備を整えたスカウトたちは、万全の態勢でキャニオニングに臨みました。滝へ向かう沢道は、時には強い水流に逆らって進み、冷たい川へ飛び込み、声を掛け合って岩場を乗り越える、スリルと冒険に満ちた体験となりました。

ついに滝へゴールした一同の笑顔は、素晴らしい達成感に溢れていました！(思わず滝行をするスカウトもいました！)

便利な日常から離れ、大自然の厳しさと美しさに直面する中で、スカウトたちは自ら考え、行動する力を発揮していました。そして困難な局面でも互いに手を差し伸べ合い、班の絆をより一層深める活動となりました。

埼玉



元気いっぱい上進式

埼玉県連盟 さいたま第1団 カブ隊副長 藤森 淳一

さいたま第1団では新年度として2026年4月19日(日)に大宮公園で上進式を行いました。参加者はスカウト62人、指導者20人です。

カブ隊の上進スカウトは、ボーイ隊に上進する、くまスカウト(新小学6年生)、ビーバー隊から新たに上進してくるビックビーバー(新小学3年生)です。

くまスカウトはボーイ隊の制服、ビックビーバーはカブ隊の制服を着て、みんな新しい制服で雰囲気も変わり、新しい隊への活動に希望で目を輝かせていました。

上進式では上進の儀式としてロープで作った川を落ちないように元気よく飛び越える必要があります。

最初はビックビーバーから飛び越えました。このぐらいの川で大丈夫かな？とローバースカウトの作った川幅に、もっともっとと広く！と頼もしい声と共に元気よく川を飛び越えました。ようこそカブ隊に！先輩スカウトが迎え入れます。

続いてくまスカウトです。カブと一緒に活動した時間を思い出しながら見守ります。元気いっぱいに川を飛び越えました。ボーイ隊でも活躍してください。上進おめでとう！



日程／2025年7月31日（木）～2025年8月3日（日）
会場／ボーイスカウト日本連盟高萩スカウトフィールド
参加人数／カブスカウト16人、ローバスカウト1人、指導者14人、
保護者5人、関係者6人ボーイ隊スカウト19人、指導者11人

秘伝の巻物を守れ！ 忍者の挑戦

千葉県連盟 浦安第2団 カブ隊 インストラクター 田代 裕貴

2025年度の浦安第2団カブ隊は「忍者」を年間テーマに活動しています。

カブ隊ではストーリー（物語）を設定することで、子どもも楽しく冒険心に満ち溢れて活動できます。

2025年度の夏キャンプは、日本連盟の高萩スカウトフィールドでボーイ隊と合同でキャンプを実施しました。ボーイ隊はカブ隊より1日前からキャンプをしていました。この日は移動中に津波警報が発令され、電車が途中で止まってしまい、大変な1日だったようですが、無事キャンプ場へ入村できました。

カブ隊は、組ごとにキャンプ中の目標や組の呼び名を決めて、3泊4日のキャンプを楽しみました。大雨の日もありましたが、ほぼ予定していたプログラムが実行できました。夏キャンプでは、子どもたちは仲間とともに大きく成長しました。うれしいことや悔しいこと、笑顔や涙など、さまざまな経験を通して多くのことを学びました。

このキャンプで得た経験が、今後の活動や日常生活に活かされていくと思います。



神奈川

米国発のカブ行事「PWD」と カーニバルの熱狂

神奈川連盟 スカウト活動支援委員会委員 安井 馨

2026年3月7日（土）、米軍レクリエーション施設「多摩ヒルズ」にて、日本在住のスкауティング・アメリカ（以降「米国連盟」）主催によるカブスカウトの祭典が開催されました。米国連盟および関東各都県連盟から総勢約340人が集結し、国境を越えた交流を楽しみました。

メインイベントは、米国発祥の伝統行事「PWD（パインウッドダービー）」です。一本の松の木から削り出し、思い思いにデザインした自慢の木製車が、重力のみを動力に特設コースを激走します。そのスピードと仕上がりに、会場は大きな歓声に包まれました。

レースの出番を待つスカウトや家族を飽きさせないのが、併設された「カーニバル」です。さまざまなゲーム屋台が並び、一番の人気を集めたのは巨大な「バルーンハウス」でした。子どもたちは飛び跳ねながら全身で喜びを表現し、待ち時間さえも特別な思い出へと変わりました。

言葉の壁を越えて友情を育んだ本行事は、国際的な視点を養う貴重な機会となりました。



伝統を繋ぎ、新年の門出を祝う 横浜第87団「旗揚げ式」

神奈川連盟 横浜第87団 団委員 安井 馨

2026年1月11日(日)、横浜第87団の伝統行事である年頭行事「旗揚げ式」が、戸塚の東峯八幡大神にて執り行いました。式典に先立ち、ボーイ隊のスカウトたちは早朝から「お餅焼き」と具だくさんの「豚汁」の準備に奔走しました。強い風と煙に格闘しながらも、日頃の野営で鍛えた手際のよさで温かな料理を仕上げました。

ビーバー隊とカブ隊は神社に参拝し、「二礼・二拍手・一礼」の作法で一年の無事を祈願。式典が始まる頃には雲間から太陽が顔を出し、雪を冠した富士山が姿を現してスカウトたちの門出を祝いました。

クライマックスには「戸塚郷土芸能保存会」による獅子舞やかめ・ひよつとこが登場しました。頭を噛んでもらう伝統儀式に会場は大いに沸き、子どもたちの笑顔が弾けました。

異年齢の仲間と協力してやり遂げる達成感や、地域文化と触れ合う豊かな体験ができました。それこそが、ボーイスカウトが大切にする学びの姿です。地域の絆と伝統に守られ、今年も素晴らしい一年のスタートとなりました。



無人島の謎に挑め！ 猿島での国際交流 「無人島ミステリーハイク」

神奈川連盟 鎌倉第2団 団委員長 安部 秀

2026年2月15日(日)、冬の柔らかな日差しが差し込む中、ボーイスカウト鎌倉第2団の主催により、カブ隊の「無人島ミステリーハイク」を開催しました。舞台は東京湾に浮かぶ歴史の島・猿島。

ホライゾンジャパンインターナショナルスクールの子どもたちと保護者・教師の計35人がゲストとして参加！ 総勢71人という大規模な探検隊です。船で島へ上陸した後、スカウトたちは「ベーデン・パウエルからの司令書」と地図を手に、まるで『天空の城ラピュタ』の世界に迷い込んだかのような幻想的な島内で、4つのミッションに挑みました。

ボーイ隊は、お兄さん、お姉さんとして各組を引率、ベンチャー隊はホライゾンの各グループをサポートし異文化交流の橋渡し役、ローバー隊は安全管理と、頼もしい若手指導者が大いに活躍しました。

言葉の壁を越え、知恵を出し合って指令を解決していく姿は、まさにスカウトスピリットそのものです。非日常的な無人島での体験を通じ、新しい友情と国際感覚を養う貴重な一日となりました。





世界とつながる第一歩！

神奈川連盟 みなと地区 国際委員会

2026年2月15日(日)、あーすぷらざ(神奈川県立地球市民かながわプラザ)にて、「外国語と遊ぼう」をテーマに本事業を開催しました。リアル形式では初めての開催となり、外国籍の保護者の協力のもと、ミャンマー・モンゴル・中国・韓国の4か国の体験ブースを実施しました。各ブースでは、挨拶や文化、生活習慣、現地のスカウト活動についても紹介され、ビーバー・カブスカウトたちはクイズや体験を通じて、楽しみながら学ぶ姿が見られました。また、各国の衣装や遊びに触れる体験も取り入れられ、異文化をより身近に感じる機会となりました。

ボーイスカウト年代にとっては、「外国語会話バッジ」取得に向けた実践の場となり、外国語で伝える楽しさと難しさを実感する貴重な経験となりました。

本活動を通じ、参加したスカウトたちは世界への興味や関心を広げる第一歩を踏み出しました。当日は、ビーバー・カブスカウト95人、ボーイスカウト6人、指導者・見学者78人が参加し、活気にあふれる行事となりました。



40年の友情

～姉妹都市スカウト交流40周年～

神奈川連盟 川崎地区 国際委員会 長谷川 博之

ボーイスカウト活動には、国際交流を通じて世界に羽ばたく青少年を育成するという目的があります。神奈川連盟川崎地区と米国メリーランド州ボルチモア地区は、両市の姉妹都市提携をきっかけに、1985年から相互訪問による交流を続けてきました。2024～2025年には40周年を迎え、今年7月には、第32回派遣隊が川崎地区からボルチモアを訪問する予定で交流は途切れることなく継続されています。

このプログラムは、一過性の訪問ではなく継続的な交流を育むことを重視し、約2週間の派遣期間を5泊6日の合同キャンプ(来日時には富士登山とキャンプ)、ホームステイで構成しています。こうした体験はスカウト同士の深い友情を育てる貴重な機会となっています。

青少年期に言葉の壁を越えて異文化に触れる経験は、参加者にとってかけがえのない財産となり、その後の人生にも大きな影響を与えています。

事業の詳細は下記川崎地区ホームページでご覧いただけます。
https://www.scout-kawasaki.org/?page_id=946



東京

そこでしかできないユニークな体験 キャンプ×厩舎のお仕事奉仕@清里

東京連盟 板橋第5団 ボーイ隊隊長 宮澤 清

2025年8月14日(木)～17日(日)、板橋第5団は、山梨県の「新栄清里キャンプ場」にて、夏季団キャンプを実施しました。清里高原は、八ヶ岳の麓、標高1,200mに位置する、酪農や牧畜が盛んな地域です。そのような土地柄を生かしたさまざまなプログラムを各隊にて展開しました。私たちボーイ隊(スカウト3人[小6:1人、中2:2人]・指導者3人)は、乗馬クラブ「ファナウ ステイブル」さんにご協力いただき、厩舎の仕事を体験する奉仕活動を行いました。当日は、朝4時起床、前日の夜に作ったスカウト弁当を持って、5時キャンプ場出発しました。ゆっくり1時間ほどかけて徒歩で牧場へ向かい、6時から奉仕活動をスタートします。以降、休憩を挟みながら約3時間、草刈り、給餌、給水、馬房掃除、馬のブラッシングなどをお手伝いしました。馬房の床に敷かれたおがくずをふるってボロ(糞)を取り除く作業はなかなかの力仕事でしたが、スカウトたちにとっては最も記憶に残る面白い体験になったようです。そしてもちろん、引き馬体験ではスカウトたちの最高の笑顔が見られました。



東京

未来をテーマに、仲間と出会う。

ODAIBANPAKU 開催

東京連盟 港第5団 ローバースカウト 佐藤 浩一郎

2025年9月21日(日)、東京都港区お台場にある港区立小中一貫教育校お台場学園にて、「ODAIBANPAKU ～大都心パビリオン～」が開催されました。

本イベントは、ローバー年代が中心となって準備・運営した、地区初の試みでした。また、これまで年代別に活動することが多かった地区内で、ビーバースカウトからローバースカウトまでが交流し、世代を超えた交流の機会となりました。

当日は、ビーバーから大学生年代を含めたスカウトたちと、活動を支えた指導者合わせて400人が参加し、半日にわたって多彩なプログラムに取り組みました。

地球温暖化やAIの暴走により変容した未来から助けを求める未来人のSOSに応えるというストーリーのもと、多様なプログラムが展開しました。参加したスカウトたちは、現代の社会問題をアクティビティを通じて学んだり、仲間と協力してゲームをクリアしたりと、交流だけでなく、プログラムを通じてさまざまな経験を積む貴重な機会となりました。



静岡

世界とつながる第一歩！

静岡県連盟 浜松第15団 団委員長 佐藤 誠

新年あけましておめでとうございます。

今年の遙拝式には、素晴らしい初日の出を拝することができました。

※遙拝式（ようはいしき）とは、神社や本殿に直接参拝できないときに、その方向に向かって一同で敬礼・黙とうなどを行い、遠くから拝礼する礼式のことで、ここでは、「初日の出」に対して拝礼行っています。

日の出時には気温が約マイナス3度を記録しましたが、健康を考慮して最小限の防寒服姿で式典を行いました。ビーバースカウトからベンチャースカウトが参加し「日の出」では、敬礼と共に“一年の誓い”をたてて新しい年を迎え気持ちを新たに、遙拝式ではスカウト・指導者が今年の抱負を披露して令和8年（創立61年目）をスタートしました。



静岡

Swim The HAMANAKO

～ダイダラボッチへの挑戦～

静岡県連盟 浜松第12団 ボーイ隊隊長 細川 淳之介

7月6日（土）～7日（日）に1泊2日で7月隊集会をスカウト17人、指導者8人で実施しました。曹洞宗寶福山金剛寺様のご協力により境内を野営地としてお借りし、2日目には浜名湖で遠泳に挑戦しました。目指すは浜名湖唯一の島「磔島」です。往復1,400mの距離を、快晴と凪という絶好の条件で泳ぎ切りました。

安全面で大きな挑戦を伴う活動でしたが、フロートブイの装備やスカウト2人につき補助者1人を配置する等、事前準備と当日の見守りを徹底し事故なく実施できました。遠泳にはスカウト10人が挑戦し、仲間と励まし合いながら少しずつ前へ進み、挑戦者全員が見事に完泳。副長手作りの完泳証を受け取ったスカウトたちは達成感に満ちた表情を見せ、また一つ大人に近づいたように感じました。

金剛寺住職の須賀様、担当補助者としてSUPで支援いただいたウォータースポーツショップ「T-flow」関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

翌月の3泊4日無人島キャンプに向けても、隊全体の気持ちと結束をさらに高める、大きな自信に繋がる活動となりました。



静岡

地元の皆様の温かさに包まれて

静岡県連盟 島田地区 島田第4団 団委員 大関 悦子

今年で38回目を迎える地元の初倉まつりが、2025年10月19日(日)JA 大井川、初倉支店倉庫内で開催され、島田第4団は、ボーイスカウト10人、ローバースカウト1人、入団したてのビーバースカウト1人、保護者10人、ほぼ全員参加で出店しました。

残暑厳しい1か月以上前から計画、準備を始め、今年の内容は、パチンコゲーム、空き缶積み上げゲーム、スカウト活動紹介のためのロープワークや隊集会でスカウトが造った陶芸作品の展示、緑の羽根募金、おでん、飲み物の販売と盛りだくさんです。

毎年感じることは、募金をお願いすると快く笑顔で応じてくださる地元の皆様、以前活動されていた諸先輩方やスカウトが立ち寄りお声をかけてくださること、我が団の現在があるのは、このような周りの皆様の支えがあってこそだと感謝で一杯になります。

近年は、異常気象、自然災害、感染症、クマ出没と不安要素が多い中、スカウトたちは元気に明るく活動を続け成長しています。そんな我が団は、発団から間もなく約60年を迎えます。

愛知

尾張富士・特別野営2026

愛知連盟 北名古屋第1団 ベンチャー隊隊長 宮田 光一

2026年3月20日(金)~22日(日)、愛知県尾張地域にて、高校生年代の青少年(ベンチャースカウト)を対象とした移動キャンプ「尾張富士・特別野営2026」を実施しました。参加者はベンチャースカウト24人、スタッフ42人でした。東海自然歩道を中心とした約33kmの徒歩移動と、木曽川での約11kmのラフティングを組み合わせた総距離約44kmのコースに挑戦しました。

参加者は2~3人のチームに分かれ、事前に立てた計画をもとに、10kg以上の荷物を背負って行動しました。2日目は尾張富士登頂への挑戦、その後ラフティングでは協力して川を下り、仲間との団結力を深めました。夜には大学生年代のスタッフが用意した温かいスープやデザートを囲み、交流を深めました。また、参加者同士で活動の振り返りを行い、それぞれの挑戦や学びを共有しました。最終日は犬山城下の歴史や周辺の鳥類を調査しながらゴールを目指し、それぞれが達成感と成長を実感する大会となりました。



第17回愛知連盟・韓国ソウル北部連盟 ローバス緑化プロジェクト派遣

愛知連盟 豊田第39団 ローバースカウト 谷澤 颯人

本派遣は2026年5月8日(金)～10日(日)に韓国・ソウルにて行われ、愛知連盟から7人、ソウル北部連盟から7人のローバースカウトが参加しました。この派遣は2007年度より、愛知連盟と友好関係にある韓国ソウル北部連盟とのローバースカウト同士の共同プロジェクトとして、コロナ禍による中断を経て今回で17回目の開催です。この派遣は緑の募金にも関連する活動であり、愛知県緑化推進委員会の国際協力費が植樹費用として充てられています。

今回の植樹は、弘大にある弘益大学附属小学校で行われ、松とツツジを植えました。また、植樹の前には小学校の校舎を案内していただきました。他にも、日韓の文化交流として、日本からは五平餅と台湾ラーメン、有松絞り体験を、韓国からは伝統的なお弁当づくりを一緒に行いました。今後の活動として、11月に行なわれるどんぐり交流会での発表があり、この発表が終わるまでが今回の活動となります。

この派遣で出会った仲間とのつながりを大切に、これからのスカウト活動にも生かしていきたいと思います。



ボーイスカウトの「強み」を社会へ！ リクルート懇談会を開催

愛知連盟 総務委員会 委員長 中出 尚彰

2026年2月11日(水・祝)、イーブルなごやで、大学生ローバースカウトを対象に「ボーイスカウト学生と企業とのリクルート懇談会」を開催しました。本事業は、スカウト活動で培った経験や技能を振り返り、就職活動において自らの強みとして企業への確に伝える力を養うことを目的とするものです。特別講演では、愛知文教大学キャリア・入試広報センター長で准教授の小川現樹先生を講師に迎え、自身の豊富なスカウト経験とキャリア教育の専門的知見をもとに、「伝える」と「伝わる」の違いや自己理解の重要性について講演いただきました。さらに、ボーイスカウト活動で培われる計画力や実行力、協調性が社会でどのように活かされるかについても具体的な助言がありました。また、ボーイスカウト活動を支援いただいている企業6社が参加し、各社による会社紹介と懇談を実施しました。参加学生は6グループに分かれ、各企業ブースで直接意見交換を行い、実践的な助言を受けました。本事業は、学生が将来を主体的に考える貴重な機会となりました。



こどもの日に八坂の杜に集まろう！

京都連盟 京都第65団 ビーバー隊隊長 櫻井 優太

京都第65団では、団行事として毎年5月5日の端午の節句の日に活動を実施しています。午前中は八坂神社での「端午祭」にガールスカウト京都府第15団と一緒に参列し、直会にて当団の育成会長である野村宮司と一緒に「ちまき」と「柏餅」をいただくのが恒例となっています。午後からは境内にて、参拝に来られた方々へ鯉のぼり型の短冊を配り、願い事を書いていただいた後、境内に飾りました。また、ヨーヨー釣りやスーパーボールすくい、昔遊びのコーナーを設け、スカウトや参拝に訪れた子どもたちと一緒に楽しみました。

さらに今年は、スカウトが海外の方々へ英語で話しかけて、出身地やその国での「ありがとう」の言い方を聞くという、外国人旅行者が多く来られる京都ならではの活動に挑戦しました。始めは緊張してなかなか話しかけることができなかったスカウトも、最後の方には積極的に声をかける姿が見られました。

当日はNHKの取材もあり、活動の様子やスカウトへのインタビューがその日のニュースで放映されました。

これからも、この八坂の杜にてさらに活発な活動をしていきたいと思います。



お大師様のお膝元！ 信仰をもっと身近に感じる隊集会

和歌山連盟 橋本第2団 カブ隊隊長 丹生 克生

11月30日(日)に実施した隊集会の活動のテーマは「タッチ・ザ・仏教」でした。子どもたちにも、そして大人も含めて、「日頃の活動の中からも『信仰』に触れる機会を持ってほしい……」そんな思いから、地元のお寺で「こぼんさん体験」を実施しました。

今回ご協力いただいたのは、橋本市高野口町にある高野山真言宗のお寺、普門院です。ご住職とはスカウティングを通じたご縁があり、室内拝観や瞑想、お写経、さらに「五体投地」と呼ばれる礼拝作法まで、スカウト13人と指導者8人全員で貴重な体験をさせていただきました。

般若心経のお写経では、スカウトたちも初めて見る難しい漢字に悪戦苦闘していました。それでも真剣な表情で筆を進める姿がとても印象的でした。

ボーイスカウトの活動は、地域の多くの方々の支えによって成り立っています。今回のような“普段なかなかできない体験”は、スカウトたちの世界を広げ、大きな成長につながります。信仰もまた、決して難しく敷居の高いものではなく、日常の中に自然と息づく身近なものだと感じてもらえたなら嬉しく思います。

大阪

「私にもちょうだい」新年大集会

大阪連盟 吹田第6団 カブ隊副長 沖本 恭子

1月18日(日)恒例の新年大集会(もちつき)が、吹田市自然体験交流センターわくわくの郷で行いました。毎年この行事には、団ファミリー(ビーバースカウトから指導者・保護者)と体験参加者が集まり、今年は総勢80人ほどになりました。

開会式の後に縦割りのグループに分かれて、もちつきスタート!……ですが、その前に、「おもちはどのようにしてできるのか?」という指導者たちのスタンプを楽しんでから始まります。

蒸しあがったもち米を臼に移し、杵でもち米の粒をこねて押しつぶしていきます。その途中の状態を「半ごろし」と言うのだということを教えると、スカウトの顔は興味津々でした。

1人が「食べてみたい」と言えば、「私も!」となります。まあ、なかなか食べられる機会はないでしょうね。

こね終わるとスカウトたちが交代でついていきます。「よいしょ!」「ヨイショ!」の掛け声があちらこちらから聞こえてくると、丸め部隊もスタンバイします。

つくたてのお餅は、お醤油やきな粉、大根おろしにみたらしのタレ、そしてお雑煮になりました。

みんなでワイワイ言いながら、おなかも心も満たされた楽しい1日となりました。



大阪

大阪・関西万博 全参加国旗降納イベント奉仕

大阪連盟 吹田第6団 ベンチャー隊隊長 虎尾 英亮

4月12日(土)に開幕した「2025年日本国際博覧会」は10月13日(月・祝)に閉幕しました。

半年に渡る開催期間中、大阪連盟ではさまざまな活動が実施されましたが、最終日の夕刻に万博東ゲート前で実施された全参加国国旗降納イベントに当団のスカウト2人が奉仕しました。

延べ29,017,924人が来場した国際的なイベントが幕を閉じるその瞬間に立ち会い、その一翼を担うことのできたスカウトにとっては、忘れることのできない最高の思い出となりました。

このような機会に恵まれたことに感謝し、これからもスカウト活動に邁進し、後輩達に良い影響を与えてくれることを期待します。



楽しめて技能も身についた一日

大阪連盟 吹田第6団 ボーイ隊長 大形 宗和

吹田市自然体験交流センターの施設開放イベント「ふれあい交流広場2026 in わくわくの郷」が2月1日(日)に開催されました。

毎年市内のボーイスカウトで「森のアスレチック」というコーナーを担当していますが、今年は当団のボーイ隊スカウト4人が指導者とともに、初めて参加しました。

スカウトたちは立ちかまど作りの技能はあるものの、このコーナーのメインであるモンキーブリッジのような大きな工作物の作成は初めてです。経験豊富な他団の指導者にも教えてもらいながら、自分たちができる部分の作業を行いました。できない部分も指導者たちの作業を目にすることで、次のステップへとつなげる経験ができました。

イベント開始後は、コーナー参加者への案内や小さな子どもの手助けをしたり、もちろん自分たちが作ったモンキーブリッジを渡ったり、またその他のコーナーをめぐるの楽しい一日となりました。

この経験をもとに、身につけた技能を通じて他の人々に親しくふれ合い、みんなに喜んでもらうことのできるスカウトに育ってほしいと願っています。



5年生だけのテント泊 月の輪キャンプに挑戦

大阪連盟 吹田第6団 カブ隊長 林 英樹

2025年7月5日(土)～6日(日)に吹田市自然体験交流センターわくわくの郷で、くまスカウト5人と指導者5人で「月の輪キャンプ」に挑戦しました。

月の輪キャンプとは、ボーイ隊に上進する前に、自分たちの力でテント泊を行いキャンプの楽しさを知る活動です。

スカウトたちはサイト到着後、まず1泊2日のキャンプに必要な食材を自分たちで買い出しに行きました。それをみんなで持ち帰って片づけた後、いよいよ本日の寝床となるテントの設営です。時間はかかりましたが、指導者に教わりながらもスカウトだけの力で張り終えました。

続いて食事作りです。火起こしでは、なかなか薪に火が付かなかったり、火がついてもすぐに消えたりと苦戦しましたが、自分たちだけで苦労して作った料理の味は、格別だったそうです。

夜には、ボーイ隊長からボーイ隊の活動についてのレクチャーを受け、その後は仲間と雑談をして楽しく過ごしました。

翌日もみんなで協力して食事を作ったり、テントの撤営をしたりと、しんどいこともありましたが、仲間たちと「月の輪キャンプ」に挑戦する中で、キャンプの楽しさはもちろんのこと、自分自身が成長したことを実感した2日間となりました。



アジア・太平洋地域の仲間と 「今を語り、未来を創る」

日本代表団オブザーバー 大西 悠太（香川連盟観音寺第5団 RS）

2025年10月5日（日）～9日（木）に台湾台北市で開催された、第11回アジア太平洋地域スカウトユースフォーラム（英語名：11th Asia-Pacific Scout Youth Forum）に日本代表団として、3人のローバースカウトが参加しました。本フォーラムは、アジア・太平洋地域の33の国と地域から、18歳～26歳のローバースカウト年代が一同に集まる、3年に一度の国際行事です。各国の現状や課題を共有し、今後3年間のアジア太平洋地域の方針を、英語で議論し決定しました。将来に責任をもつことができる「青年年代」の私たちだからこそできることを考え、アジア太平洋の仲間と語り合いました。特に地域社会と連携したボーイスカウト運動は、日本だけでなくアジア太平洋地域でも大きなトピックとなっています。日本に帰国した今、アジア太平洋の地で学んだことを広く伝え、地域と共に歩み、社会から求められるスカウティングを実践していきたいです。



仲間は“たからもの” 2025 えひめカブラリー

愛媛県連盟 副理事長 中園尾 正

11月29日（土）・30日（日）、愛媛県西条市のモンベルアウトドアオアシス石鎚とフォレストアドベンチャー・西条を会場に、「愛媛県連盟カブラリー」を開催しました。小春日和のやさかな日差しの中、和太鼓の力強い音色が響き渡り、県内から集まったカブスカウトをはじめ総勢256人が参加しました。会場はにぎやかに幕を開けました。

プログラムの一つ「めざせ！ボーイスカウト ポケモントレーナー！」では、人気キャラクターの世界を舞台にさまざまなミッションに挑戦しました。スカウトたちは身につけた技能とチームワークを発揮しながら課題を乗り越える姿を見せてくれました。また、「チャレンジ！森のアスレチック」では、木々の間を進むジップラインやアスレチックに挑み、最初は戸惑う様子の子も仲間の励ましで勇気をふり絞り、見事にコースをクリアでき、森いっぱい笑い声が広がりました。

2日間の活動を通して、仲間とともに挑戦する喜びを実感したスカウトたち。そのはつらつとした笑顔こそが、成長の何よりの証です。



第5回ベンチャートレイル The Future of Scouting: A Kingdom Road

福岡県連盟 スカウト活動委員長（北九州第1団ローバー隊副長）

松永 光弘

ベンチャースカウトによる移動キャンプを2026年3月20日（金・祝）～22日（日）、2泊3日で実施しました。

ベンチャートレイルとは、ベンチャースカウトが福岡県内の九州自然歩道踏破を目指す県連盟100周年記念プロジェクトであり、2021年12月に九州自然歩道の北の起点、北九州市の皿倉山をスタートしました。ローバースカウトが実行委員としてルートチェックや安全管理等のサポートを行い、ベンチャースカウトが計画を立てて参加します。

今回は、第3回のゴールであった太宰府天満宮を出発し、佐賀県との県境を辿りながら九千部山、背振山を経由し脇山野宮場を目指す41.4kmをベンチャースカウト14人、ローバースカウト7人、支援指導者等15人で臨みました（近隣県連盟からの参加者を含む）。

3日目の午前中までは好天に恵まれましたが、最後は雨の中のゴールでした。

100周年記念植樹、タイムカプセルの設置後、ローバースカウトたちが作ったぜんざいをいただき、全5回の締めくくりとなりました。

全5回総ルート178km、延べ参加：ベンチャースカウト60人、ローバースカウト32人、支援指導者等73人以上



焼き芋屋さん

福岡県連盟 宗像第2団 ビーバー隊隊長 真武 清一

2026年3月15日（日）福岡県宗像市吉武の八所宮キャンプ場で焼き芋作りを行いました。

霧吹きを使い濡らした新聞紙でサツマイモを包み、アルミホイルで隙間なく覆います。子どもたちと一緒に落ち葉や小枝を集め、焚火を起こしました。トングを使ってサツマイモを投入する際には、おっかなびっくりの表情でしたが、上手に入れることができました。あとは落ち葉をかぶせてじっくり待ちます。およそ20分から30分で焼き上がりです。上手に焼けて、おいしくいただきました。

子どもたちはサツマイモが焼きあがるまでの間、「大きなまつぼっくり探し」を行いました。雨上がりで傘が閉じていましたが、みんなお気に入りを見つけて大満足！楽しい活動になりました。



BRAVELY

新たな挑戦へ、一步踏み出そう。

第26回世界スカウトジャンボリー

4年に1度開催される本大会、2011年のスウェーデン以来4大会ぶりにヨーロッパの地で開催されます。日本派遣団として総勢512人が世界へ挑みます。

40人で編成する参加隊11個隊440人が国内での事前訓練を経てグダニスクの地を目指します。

IST（国際サービスチーム）50人は、世界各国のスカウト仲間とともに大会運営を支えます。

CMT（派遣団本部）22人は、参加者全員が安全かつ充実した大会を経験できるようサポートします。

第26回世界スカウトジャンボリー

2027年7月30日～8月8日 | ポーランド・グダニスク

テーマ: BRAVELY



カンダーシュテーク 夏季野営スタッフ派遣員任命式



2026年5月9日（土）、神奈川スカウト会館において「2026年度カンダーシュテーク夏季野営スタッフ派遣員任命式」が行われました。神奈川連盟横浜第132団ローバースカウトの松田歩子さんが派遣員として任命され、国際コミッショナーから任命書と派遣員ネッカチーフが授与されました。

任命式には神奈川連盟関係者をはじめ、地区役員、所属団の指導者や、両親が参列しました。参列者からは、世界のスカウトと交流しながら多くの経験を積んでほしい、日本代表として活躍してほしいとの励ましや期待の言葉が贈られ、松田さんの新たな挑戦を温かく見送りました。

任命式に先立ち行われた準備訓練では、派遣までの経緯や今後の日程の確認に加え、カンダーシュテーク国際スカウトセンター（KISC）の歴史や活動内容、世界のスカウト運動の現状、

日本代表としての心構えなどについて理解を深めました。KISCは1923年にベーデン・パウエル卿の構想により設立された世界スカウトセンターであり、日本からの派遣は1979年から続く伝統ある国際プログラムです。

松田さんは2026年6月から約3か月間、世界各国から集まるスタッフとともにセンター運営に従事し、国際交流や異文化理解を深めます。神奈川連盟からの派遣は10年ぶりとなり、その活躍に大きな期待が寄せられています。今回の経験が、今後のスカウト活動や地域社会への貢献につながることを願っています。



大阪

未来へつなぐ奉仕

大阪・関西万博の舞台で輝いたスカウトたち

大阪連盟

EXPO 2025 大阪・関西万博。その大舞台で、スカウトたちは“支える側”として世界を迎えました。国旗を掲げ、来場者を迎え、式典を支えた日々。そこには、ボーイスカウトが大切にしてきた「そなえよつねに」の精神が、確かに息づいていました。



「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開催された EXPO 2025 大阪・関西万博。世界中から多くの人々が集うこの国際的な舞台で、スカウトたちがさまざまな奉仕活動に取り組みました。

その歩みは、万博開幕の3年前、2022年1月から始まっていました。大阪連盟は万博協会へ幾度も足を運び、「スカウトたちが社会に貢献できる場をつくりたい」という思いを伝えました。そして近畿ブロックの有志県連盟の協力も得ながら、累計約1200人にのぼるスカウトと指導者が、この奉仕活動に参加しました。

活動内容は、土・日曜日、祝日に開催されるナショナルデーやスペシャルデー公式式典での国旗掲揚奉仕、西ゲートに掲げられた万国旗の点検に加え、開会式やジャパンデー公式式典、BIE（博覧会国際事務局）デー公式式典、閉会式、国旗降納イベントといった主要行事での“国旗担当”と、多岐にわたる重要な役割を担いました。

厳しい暑さの中での奉仕は、決して簡単なものではありませんでした。しかしスカウトたちは、自らの役割に責任をもち、仲間と協力しながら活動に取り組みました。制服を正しく着用すること、記章を整えること、時間を守ること——そんな基本を一つひとつ積み重ねる姿は、まさにボーイスカウト教育の成果そのものでした。

特に印象的だったのは、10月13日（月・祝）に実施された一斉国旗降納セレモニーです。限られた準備期間にもかかわらず、ガールスカウトの協力も得て、380人ものスカウトと指導者が集結しました。夕日に照らされながら整然と旗を降納する光景は、多くの人々の心を打ちました。

後日、万博協会からは「ボーイスカウトに任せて本当に良かった」「万博の目的の一つである“未来を背負う若者たちへのレガシー継承”という観点においても、大きな意義があった」と高い評価の言葉が寄せられました。それは、日頃の訓練と仲間を思いやる姿勢が、世界の舞台でもしっかりと発揮された証でもありました。

今回の奉仕は、単なるイベント参加ではなく、スカウト一人ひとりが社会とのつながりを実感し、自信と誇りを胸に刻んだ“未来への一歩”でした。この経験はきっと、これから先の人生の中でも、大きな力となって輝き続けることでしょう。

■ 開会式

2025年4月12日（土）の大阪・関西万博開会式では、大阪連盟所属のローバースカウト8人が奉仕者として参加し、各国旗およびBIE旗の掲揚を担当しました。

万博開幕という歴史的な節目の舞台で、厳粛な雰囲気の中、世界各国から集まる来場者を迎える重要な役割を果たしました。



ある奉仕スカウトの感想／人生においておそらくもうないであろう万博の開会式というとても名誉な場所でボーイスカウトとして旗を掲揚できたことがとても嬉しかったです。

自分は多くの人に支えられて、そして支えあいながら日々活動をしていることを改めて感じることができました。また、今回自分が感じたこと等の経験を忘れることなく後輩スカウトに伝えていきたいです。

■ ジャパンデー



2025年7月3日（木）に開催されたジャパンデー公式式典では、大阪連盟所属のローバース

カウト6人が日本国旗の掲揚を担当しました。

世界各国の来場者が注目する公式行事の中で、スカウトたちは緊張感をもって任務に臨み、日本を代表する式典の一翼を担いました。

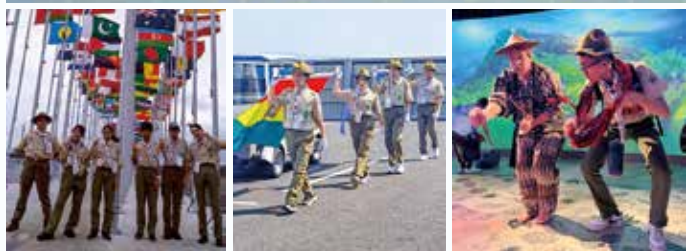
■ ガスパビリオン おばけワンダーランド

2025年7月5日（土）・6日（日）・12日（土）・13日（日）の4日間、「ガスパビリオン おばけワンダーランド」において、カブスカウト40人を含む計56人が奉仕活動を行いました。

スカウトたちは、体験プログラムで使用するXRゴーグルの準備や参加者の誘導などをしました。多くの来場者が安全に体験を楽しめるよう支援しました。



■ ナショナルデー・スペシャルデー



万博会期中の4月19日(土)から10月12日(日)までの土・日曜・祝日等に、ジャパンデーを含む59の国・地域・団体のナショナルデー、スペシャルデー公式式典において、国旗・団体旗の掲揚奉仕を行いました。

あわせて、西ゲートでの万国旗点検作業にも従事し、近畿ブロック各県連盟所属団とガールスカウトが協力して活動。期間中には、延べ500人近くのスカウト・指導者が奉仕に参加しました。

ある奉仕スカウトの感想／私は、チェコ共和国のナショナルデーの奉仕活動を行いました。

正しい敬礼の仕方、右向け右など、動作をきびきびとできるように何度も何度も練習しました。本番では多少緊張もしたけれど、練習のとおり動作ができて、成功したと思います。国旗掲揚時には、音楽を流すのではなく、チェコ国の合唱団が君が代も歌ってくれて、驚きました。奉仕が終了した後に、万博の中でチェコのボーイスカウトに出会って色々な話をしてくれました。英語がペラペラで、だいたい言っていることはわかったけど、自分から話をするのは無理でした。できれば英語が自由に話せるようになったらいいなと思いました。本当にいい思い出になりました。

■ 閉会式

2025年10月13日(月・祝)、大阪・関西万博最終日の閉会式において、大阪連盟所属のローバースカウト22人が奉仕を行いました。

式典では、国旗掲揚、BIE旗の降納に加え、次期開催国・開催地へとつなぐハンドオーバーセレモニーの進行補助に従事しました。世界が見守る厳粛な場において、各役割を丁寧に務め、閉幕式の円滑な運営に貢献しました。

ある奉仕スカウトの感想／BIE旗を壇上で手渡し役割だった。階段でつまずきかけたり、手渡しタイミングがわからなかったりなど、ハプニングが多かったが、無事役割を果たすことができた。閉会式に引き続き、このような大役を務めることができ、自分の自信となると

ともに関わったすべての人に感謝しかない。また、私たちの姿を見て自分もこうなりたいと思うスカウトが一人でも増えることを祈る。閉会式までの活動を通して、参加スカウト全員の仲がとても深まった。今後の活動につながるという点でも、今回の奉仕に参加することができて本当に良かった。



■ 国旗降納イベント



2025年10月13日(月・祝)、大阪・関西万博の閉幕に伴い、会場ゲート前に掲げられていた167の国旗・団体旗が、近畿ブロック各県連盟およびガールスカウト、約350人の奉仕者により、2人一組で日没に合わせて一斉に降納されました。

夕日を受けてはためく旗が、合図とともに静かに降ろされていく様子は、万博の締めくりにふさわしい厳粛さと感動を伴う光景となりました。



「めざせ、ポケモントレーナー！」

注目 TOPIC 1

ポケモンがつないだ新しい体験

ボーイスカウト日本連盟では、株式会社ポケモンの「My First Pokémon[※]プロジェクト」と協力し、小学生を対象とした体験型プログラム「めざせ！ポケモントレーナー」を全国で展開しています。

このプロジェクトは、4年前に株式会社ポケモンから提案をいただいたことをきっかけにスタートしました。世界中で親しまれているポケモンと協力することで、子どもたちに新たな体験の機会を提供するとともに、これまでボーイスカウトと接点のなかった子どもたちにも野外活動の魅力を届けたいという思いから取り組みを進めてきました。

プログラムの開発にあたっては、ポケモンの世界観とボーイスカウト教育の特徴を生かしながら、「子どもたちに何を伝えたいか」「どのような体験をしてほしいか」を重ねて議論しました。

参加した子どもたちは、仲間と協力してミッションに挑戦する中で、一人では難しいことも力を合わせることで達成できる喜びを体験しています。また、自分の得意なことでも仲間に貢献したり、苦手なことを助けてもらったりすることで、協力することの大切さを学べる機会へとつなげています。

これからも、ポケモンとともに広がる冒険を通して、多くの子どもたちが仲間との協力や自然の楽しさを発見し、さまざまな体験に挑戦してくれることを期待しています。

※ My First Pokémon プロジェクト：子どもとポケモンの接点を創出する、株式会社ポケモンの取り組み

注目 TOPIC 2

株式会社ポケモンコーポレートサイトにて、本取り組みについての記事が掲載されました。(2026.04.24掲載)



ボーイスカウトとポケモンがお届けする、子どもたちの体験活動を推進するプログラム



2025年から2027年2月まで実施する本プログラムでは、小学生を主な対象に、ポケモンと一緒に冒険する楽しさを感じながらボーイスカウトの野外活動を体験できます。

参加者は「ポケモントレーナーになる」ことを目指し、自然の中でさまざまなミッションに挑戦します。ポケモンを初めて知る子どもから大好きな子どもまで、誰もが楽しめるプログラムです。



スカウトスキルで 広がる ポケモンの世界

2025年度は、全国約290の団・地区において14,181人のスカウトが本プログラムに参加しました。また、2026年度も約120の団・地区から6,200人のスカウトの参加が予定されています。プログラムでは、「立派なポケモントレーナーになるため、トレーナー候補者が集まった。スカウトたちは仲間と力を合わせ、6つのミッションに挑戦しながらポケモントレーナーを目指していく！」というストーリーをもとに、日本連盟が作成したガイドを参考にしながら、5つのミッションと1つの全体ミッションの計6つを展開しています。各プログラムのストーリーは、ボーイスカウトの教育プログラムに沿った活動となるよう構成されています。



6つのミッションには、「おなかぺこぺこ木の実大作戦」「ふわふわ落ち葉の大搜索」「どこにいるの？ポケモン探し隊！」「風のいたずら！道を取り戻せ！」「どうする？崖の上のポケモン」「ポケモン救助に出動だ！」があり、それぞれにパートナーポケモンが設定されています。参加者はパートナーポケモンの特性を活かしながら、スカウトスキルと結びつけたミッションに挑戦します。

例えば、ジュナイパーは「翼に仕込まれた矢羽をつがえて放つ。100メートル先の小石も貫く精度。」という特徴を持っています。スカウトたちは、そのパートナーポケモンになりきってミッションに挑戦しながら、「チームワーク」「体力づくり」「技能」「瞬発力」「観察力」「救護」といった力を身につけ、仲間と協力し、自ら考えて行動する力を育んでいます。

さあ、きみも仲間と力を合わせてミッションに挑戦し、ポケモンたちとともに冒険の世界へ飛び出そう。目指せ、立派なポケモントレーナー！

ジャンボリーの魅力ってなに？

仲間

毎日本気でぶつかり合った日々。
苦楽を分かち合えた仲間は、
いつまでも一生の親友です。

成長

自分たちだけで挑んだ7日間の野外生活。
次々と起きる困難を工夫して乗り越え、
自分にもできると実感したあの瞬間、
間違いなく自分は『一人前』になったと思います。

思い出

いつまでも思い出せる一夏の原体験。
ここでしか味わえない非日常の時間は、
人生を強く支える思い出の1ピースです。

過去大会の参加者に聞いてみました。



日本スカウトジャンボリーは、青少年の自己成長を促すためにボーイスカウト日本連盟が4年に一度開催する国内最大級の教育キャンプ大会です。2026年8月4～10日広島県の神石高原町で第19回大会を開催します。

富士スカウト代表表敬

赤坂東邸／3月31日（火）10:00～10:50
首相官邸／3月31日（火）18:00～18:15

2025年に富士スカウト章を受章したスカウトの中から選ばれた代表スカウトによる表敬が、3月31日（火）に赤坂東邸および首相官邸で行われました。

全国から集まった86人の代表スカウトは、赤坂東邸47人、首相官邸39人に分かれて表敬に臨みました。事前研修や交流を通じて親睦を深めた後、それぞれの訪問先でこれまでの活動や将来への抱負を伝えました。

赤坂東邸では、秋篠宮皇嗣殿下並びに悠仁親王殿下にご接見を賜りました。代表スカウトたちは、それぞれが取り組んできたプロジェクトや活動について説明し、懇談を通じて交流を深めました。地域や社会の課題に主体的に取り組むスカウトたちの姿に、深い関心を寄せていただく貴重な機会となりました。

首相官邸では、高市早苗内閣総理大臣および中村裕之文部科学副大臣から激励

のお言葉をいただきました。代表スカウトは、これまでの活動を通じて得た学びや今後の目標について決意を述べ、高市総理からは未来を担う若者たちへの期待が、中村副大臣からはスカウト活動で培った力を社会で発揮してほしいとの励ましの言葉が贈られました。

また、両表敬の最後には、代表スカウトからボーイスカウトのエールである「弥栄」を三唱しました。全国から集まった仲間との交流とともに、参加したスカウトたちにとって、自らの歩みを振り返り、これからの挑戦への決意を新たにすることができました。



秋篠宮家提供



スカウトの日

出動！キラまち隊！～人と地球によりよい未来を～

ボーイスカウト日本連盟では、毎年9月の第3月曜日（敬老の日）を「スカウトの日」と定め、全国のスカウトが地域社会への奉仕活動に取り組んでいます。今年で52回目を迎える2026年度のスカウトの日は、9月21日（月・祝）に実施されます。

今年のテーマは、「出動！キラまち隊！～人と地球によりよい未来を～」です。

私たちが暮らす地域や地球には、環境問題や社会課題など、さまざまな課題があります。スカウトの日は、それらの課題に目を向け、自分たちにできることを考え、行動する日です。

地域清掃や植林活動、福祉活動、人権・平和・国際理解をテーマとした活動、SDGsにつながる取り組みなど、活動の形は地域によってさまざまです。しかし、その根底にあるのは「よりよい社会をつくりたい」というスカウトの思いです。

ボーイスカウト運動は、自然や地域社会との関わりを通じて、自ら考え行動できる人を育てることを目指しています。スカウトの日は、その実践の場であり、地域社会の一員として行動する貴重な機会でもあります。

本年度は、新たに「スカウトの日」のぼり旗を全国の団へ配布します。のぼり旗を掲

げながら活動することで、地域の皆さまへ活動を発信するとともに、多くの方々にボーイスカウト運動を知っていただく機会となることを期待しています。

一人ひとりの小さな行動が、地域を変え、社会を変え、未来につながります。

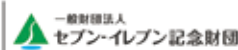
全国の仲間とともに、「キラまち隊」として地域へ飛び出し、人と地球によりよい未来をつくる一歩を踏み出しましょう。



埼玉・久喜第21団



茨城・桜川第1団



Scout UP!

全国のスカウト活動を支える情報基盤 必要な情報を、必要な人へ



ボーイスカウト日本連盟は、全国の加盟員・指導者・サポーターへの情報発信をより迅速かつ確実に行うため、公式スマートフォンアプリ「Scout UP!」を運用しています。全国に広がる

ボーイスカウトでは、日本連盟、県連盟、地区、団など多くの組織が連携して活動しています。そのため、重要なお知らせやイベント情報を全国へ届けるには多くの人を介する必要があり、情報伝達のスピードや確実性が課題となることがありました。Scout UP! は、そうした課題の解決を目的として、ボランティアメンバーと専門ベンダーが協力して開発したデジタル情報基盤です。加盟員一人ひとりのスマートフォンへ直接情報を届けることで、必要な情報をより迅速かつ確実に伝えられるようになりました。全国のスカウト活動を支える情報発信基盤として活用されているほか、加盟員以外の方との新たな接点づくりにも役立っています。



アプリの主な機能

- 1 連盟・県・地区からのお知らせをプッシュ通知でお届け
- 2 所属や役割に応じた情報をお届け
- 3 デジタル加盟登録証を表示、イベントでの受付もスムーズに
- 4 進級の記録や表彰の記録をデジタルで管理

ダウンロードはこちら



■ プッシュ通知でタイムリーにお知らせを配信

日本連盟や県連盟からのお知らせをプッシュ通知で配信できます。従来は複数の組織階層を経由して共有されていた情報も、アプリを通じて直接届けることが可能になりました。重要なお知らせやイベント情報を、より迅速に共有できる環境づくりを進めています。

■ 必要な情報を、必要な人へ。

所属県連盟や役割、年代などに応じて配信対象を設定することができます。一人ひとりに関係する情報を効率的に届けることで、情報過多を防ぎながら必要な情報へのアクセス性を高めています。

■ サポーターにも情報を発信

Scout UP! は加盟員だけでなく、サポーター会員としてボーイスカウトに登録した方もご利用いただけます。ボーイスカウトの活動や取り組みをより身近に感じていただくための情報発信ツールとしても活用しています。

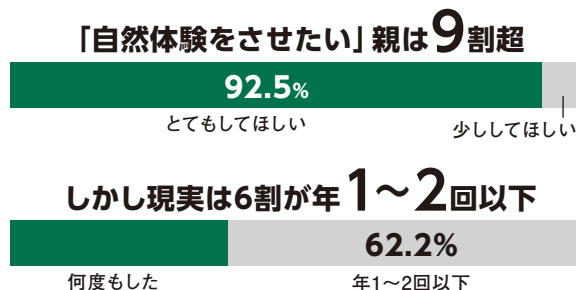
今、子どもたちの「体験」に何が起きているのか？

—「体験格差白書 2025」から見える、ひとり親家庭の現実と私たちの使命—

1 「させたい」と「できない」の大きな乖離

体験格差白書 2025 で見えてきた結果、自然の中での体験を子どもに「とてもしてほしい」と願う親は 92.5% に達しています。しかし、実際に過去 1 年間で体験できた回数は、6 割以上（62.2%）が「年 1 ～ 2 回以下」に留まっており、親の願いと現実の間に深刻なギャップが生じています。

■ ひとり親 172 人に聞いた、子どもの体験の希望と現実



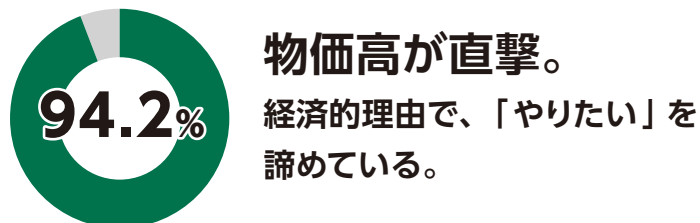
学校や公園でも、子どもの遊びや好奇心を制限される事が多くなり、ゲーム機で遊ぶ事がどうしても増えてしまう中、スカウト活動は自然の中での経験や、仲間達との関わりがとても貴重な時間になっています。これからもスカウト活動の中で色々な経験をしてもらいたいです。

母親のみの家庭環境ということで、体を使った遊び、活動がどうしても少なくなりがちですが、カブ隊でたくさんのさまざまな体験をするにつれ、とても身体が強くなったと思います。野外活動、火起こし等、生きる力の身につく経験をできることは本人も興味深く取り組んでいます。

2 物価高騰が直撃する「体験の機会」

調査の結果、94.2% の家庭が物価高騰の影響で「子どものための費用」を抑えています。

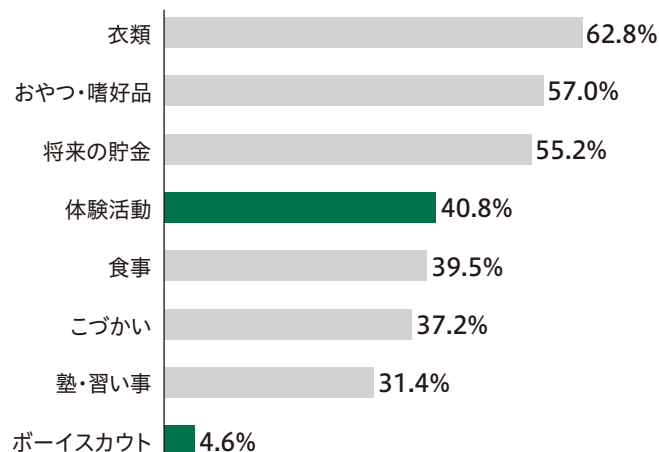
■ ひとり親家庭のうち、物価高騰で子どものための支出を削っている家庭の割合



3 削られるのは「習い事」より先に「体験活動」

支出を抑える際、衣類やおやつに次いで約 4 割（40.8%）の家庭が「体験活動」を削減の対象としています。塾や習い事（31.4%）よりも先に、キャンプや自然体験といった「非日常の体験」が削られる傾向にあります。ボーイスカウトは 4.6% で、「これだけは続けさせたい」という家庭の願いが表れています。

■ 物価高騰により抑えている支出の内訳（複数回答）



今すぐ体験格差白書
2025をチェック



居場所、成長、そして未来への「トモスス」

4 「最後の砦」としてのボーイスカウト

さまざまな支出が削られる中で、ボーイスカウトの活動費を削った家庭はわずか4.6%でした。「他は削っても、スカウト活動だけは続けさせたい」という保護者の強い意志が見て取れます。実際に、3人に1人の子どもにとって、ボーイスカウトが「唯一の学校外での体験活動」となっています。

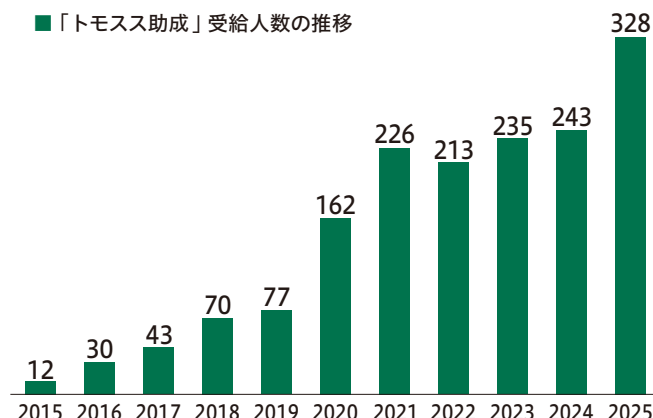
5 10年続く支援の輪「トモスス助成」

日本連盟では、2015年から「ひとり親家庭等応援・ともに進もう助成プログラム（通称：トモスス助成）」を実施しています。

実績 2025年度には過去最大の328人が受給し、これまでに延べ1,600人以上の子どもたちに活動支援金を届けてきました。

期待 保護者は、スカウト活動を通じて「家庭でできない活動（89.6%）」や「仲間との繋がり（61.7%）」を得ることを強く期待しています。

■「トモスス助成」受給人数の推移



6 保護者から寄せられた声

ひとり親でボーイスカウトの活動に送っていけないことがありますが、自分で雨の中雨具を着て自転車で行ったよ！と報告を受けると嬉しくなったなど日々感心しています。また年下のスカウトのことを気にかけるようになってきたと思います。虫は苦手だけどキャンプは楽しい！と次の宿泊活動はいつかなぁと楽しみにしています。

思春期ですがボーイスカウト活動の中で親以外の大人と接する機会があるおかげで話すことに慣れてきました。

活動で募金をしたことから、町中で街頭演説をしたり、募金活動している人の目的を考え自分の共感したことには、自分のお小遣いから少額ですが、募金したりと社会的な参加を積極的にする場面で成長を感じます。

7 結びに

ボーイスカウト日本連盟は、経済的・時間的理由で体験を諦めざるを得ない子どもたちにとって、「身近で」「継続的な」体験の選択肢であり続けます。すべての子どもたちに豊かな体験を届けるため、私たちはこれからも歩みを止めることはありません。



つながる支援、ひろがる体験

月々のクレジットカード決済によるご寄付、PayPay、また書き損じはがきなどによるご寄付、遺贈（遺産によるご寄付）を受け付けています。2024年度は累計で7,845万円（災害募金482万円を除く）のご寄付をいただきました。心から感謝申し上げます

■ ご寄付に関するお問い合わせ

メール bokin@scout.or.jp 電話 03-6913-6262

INTERVIEW WITH



A YOUNG LEADER

Compass 若手リーダーインタビュー

スカウト活動を通して 成長した若手リーダーが 社会でどのように活躍しているか インタビューしました！

プロフィール

岩壺 拓真 [24歳]

兵庫連盟 神戸第54団 ボーイ隊副長

職業 / AI・DX コンサルタント

会社 / パーソルホールディングス株式会社（人材サービス会社）

学生時代にどのようなスカウト活動をおこなっていましたか？

私は小学校に上がる前のビーバースカウトから、スカウト活動をスタートし、大学時代までさまざまな活動に参加してきました。中でも一番印象に残っているのは、IST（国際サービスチーム員）として参加した第25回世界スカウトジャンボリー（25WSJ）での出来事です。

将来 IST を目指すスカウトにとって「IST が裏でどのようなことをしているのか見えない」という課題がありました。それなら自分が橋渡しをしようと、IST の活動を毎日レポートする Facebook グループを立ち上げ、仲間の IST メンバーも巻き込んで、日々の現場を投稿してもらうようにしました。

想定外の台風で大会会場を退避することになると、スカウトの保護者の方々も次々とグループに参加してくださるようになりました。IST の現場だけでなく、スカウトの様子をレポートする場へと投稿内容を広げた結果、最終的には500人を超えるグループになりました。大会終わりには、保護者の方から「子どもにも IST を経験させたい」というありがたい声もいただきました。

「課題に気づき、デジタルの力で周りを巻き込めば、今までにない価値を届けられる」この成功体験が、今の自分の原点になっています。



25WSJ の大集会でも広報担当としてサポート



25WSJ にて仲良くなったチームメンバー

社会の中でどのようにスカウト活動が生きていますか？

現在私は社会人2年目で、doda など“はたらく”にまつわるサービスを提供しているパーソルホールディングス株式会社で、グループの DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進する仕事をしています。

DX 推進には、明確な正解があることが少ないと思っています。誰かが用意した答えをなぞるのではなく、現場の課題を見つけ、自ら問いを立てて動く必要があります。この姿勢こそスカウト活動を通じて自然と身についたものであり、社会に出てからの自分を支えている一番大きな財産だと感じ

ています。スカウト活動では年齢が上がるにつれて、自ら企画を考え、仲間を巻き込んで実行することが求められるようになります。この経験は、そのまま社会人としての仕事の進め方に繋がっています。

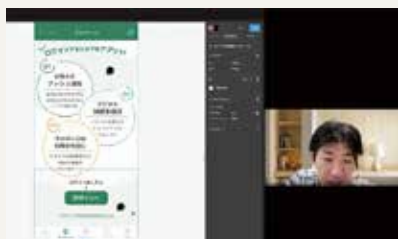
入社以来、AI を活用した業務改革に自ら手を挙げて取り組み、新卒表彰もいただくことができました。スカウト時代から染みついた「自ら問いを立てて行動する姿勢」が、社会人になっても自分の武器になっていることを日々実感しています。



25WSJ に一緒に行った同期



全国大会で、「Scout UP!」の広報する様子



「Scout UP!」の開発会議をする様子



100kmハイイクで「Scout UP!」を使って
チェックインをする様子



全国大会で「Scout UP!」アプリで
チェックインする様子

日本連盟公式アプリ「Scout UP!」のプロジェクトリーダーとして 活躍する岩壺さんに、開発秘話をお聞きしました！

「Scout UP!」の開発に関わるようになった経緯を教えてください！

日本連盟では以前から、全国のスカウトや指導者への情報伝達のスピードや正確さに課題がありました。その解決策の一つとして公式アプリを開発する方針となり、学生時代からアプリ開発に取り組んでいたこともあった私がプロジェクトリーダーとしてお声がけいただいたのが始まりです。

現在は、新しい機能の企画から開発ベンダーとの調整、リリースまでを一貫して担当しています。全国のスカウト・指導者に直接影響するアプリを作成する責任は決して軽くありませんが、それ以上にやりがいを感じています。

アプリ開発を通して学んだこと・得られたものは何ですか？

「使う人の顔を思い浮かべながら作る」ことの大切さです。スカウト、指導者それぞれに違うニーズがあります。どんなに技術的に優れたアプリでも、使ってもらえないと意味がありません。自分自身も一人の加盟員であるという立場を活かして、「自分なら何があれば嬉しいか」を常に考えながら開発しています。

一番の喜びは、活動現場でスカウトや指導者の皆さんが実際に「Scout UP!」を使っている場面を見る時です。昨年は、全国大会や東京連盟主催のローバースカウト100kmハイイクでも、アプリのデジタル加盟

登録証やお知らせ機能を活用していただきました。自分たちが作ったものが現場の活動を支えている実感は、何にも代えがたい達成感があります。

アプリ開発は決して一人ではできない仕事です。現場の指導者やスカウトの皆さんの声を集め、日本連盟の方、開発ベンダーの方、たくさんの人と一緒に一つのものを作り上げていく感覚は、スカウト時代に班で何かを成し遂げた感覚とまったく同じです。スカウトでの経験が、こうして仕事の現場でそのまま生きていることを、開発のたびに実感しています。

最後にひとこと！

スカウト活動で身につけたものは、必ず社会で生きると確信しています。それは資格や肩書きのようなものでも即時に身につくようなスキルでもなく、活動が続けることで生きていく上での土台となり「自分で問いを立て行動する力」として、社会に出てからの自分の軸になっています。

スカウト運動は、子どもたちが大人になっ

た時、社会のどんな環境でも自分の足で立ち、周りを巻き込んで価値を生み出せる人に育つ場所だと思っています。

何かに挑戦してみたいスカウトがいたら、ぜひ手を挙げてみてください。そして、そんな皆さんの挑戦に「Scout UP!」が寄り添える相棒になれば幸いです。



「Scout UP!」などの
施策と共に進め
てきた広報委員会
メンバーと



広島県神石高原町役場

未来創造課 課長

川上 誠太郎さん

今夏の日本スカウトジャンボリーの開催地である広島県神石高原町について、町の魅力や大会に懸ける期待、そしてスカウトたちへの熱いメッセージを伺いました

——まず最初に、未来創造課での活動内容について教えてください。

未来創造課の業務は非常に幅広く、まちづくりの企画立案や DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進をはじめ、人権・平和・男女共同参画などの社会教育、スポーツ推進や移住・定住など、多岐にわたる分野を担当しています。そして、今夏この神石高原町で開催されるボーイスカウトのジャンボリーに向けた準備や連携も私たちの重要な仕事の一つです。

——ジャンボリーの舞台となる神石高原町ですが、どのような町なのでしょう？

一言で言えば、四季の変化をはっきりと肌で感じられる、自然豊かな美しい高原の町です。夏には心地よい虫の音が響き、夜には息をのむほどの満天の星空が広がります。

す。ただ、全国の多くの自治体と同じく人口減少や過疎化が進んでおり、全校生徒十数人で複式学級になるなど、地域のコミュニティの維持や困りごとの解決が現在の大きな課題となっています。

——今回の全国大会を通じて、町として期待していることや取り組んでいることはありますか？

大会期間中は、町の人口を超えるほどのたくさんの若者が全国から集まります。多感な時期の皆さんにこの町へ足を運んで

もらい、名前を覚えてもらえること自体が大きな財産です。現在は観光協会と一緒に、この土地ならではのアウトドアプログラムを考えています。また、スカウトの皆さんが地域の課題解決をお手伝いしてくれる計画もあります。例えば少人数で掃除が行き届かなかった小学校の校舎や体育館の清掃などを通じて、現地の子どもたちと深い交流が生まれることを期待しています。

——神石高原町を訪れたら、ぜひ食べてほしい自慢の特産品はありますか？

町をあげて力を入れている「赤と黒のプロジェクト」があります。「赤」は甘くてジューシーな「〇豊トマト（まるとよトマト）」、「黒」はブランド牛として盛り上げている「和牛（神石牛）」とピオーネの栽培も盛んです。特に新規就農者へのサポートも手厚く、町を代表する自慢の味ですので、ぜひ皆さんに味わっていただきたいですね。

——最後に、これをご覧になっているスカウトや関係者の皆さんへメッセージをお願いします。

スカウトの皆さんには、ぜひ神石高原町の「満天の星空」を見ていただきたいです。この穏やかな気候のなかで、将来ずっと続くような大切な仲間をたくさん作ってください。大人の指導者の皆さんが、日々お忙しいなかで子どもたちのために誠心誠意尽くされている姿には頭が下がります。町としても全力で皆さんをお迎えしますので、お体に気をつけて当日をお迎えください。お待ちしております！



「コンパス オブ スカウト」を眺めながら、ジャンボリーへの期待を語る川上課長。町の人口を上回る参加者を迎えるため、神石高原町では町を挙げて準備を進めてくださっています！

日本スカウトジャンボリーに支援をいただいている団体にインタビューを行いました！



認定NPO法人ピースウィンズ・ジャパン
国内事業部 次長
橋本 笙子さん

——まず最初に、ピースウィンズ・ジャパンでの活動内容について教えてください。

私たちは、国内外の紛争地や大規模災害の被災地で、緊急人道支援や復興へ向けた生活再建、地域防災力の強化などを行う民間非営利団体です。代表的なところでは、現在も能登半島地震に対する支援を継続して行っています。私自身は国内事業部の次長として、国内の災害対応や、地域の防災力を高めるための訓練、行政との連携協定の推進などを担当しています。

——能登半島地震の支援地である珠洲市の現在の様子はいかがでしょう？

珠洲市はもともと高齢化が進む街でしたが、度重なる地震と豪雨が追い打ちをかけ、家屋の倒壊だけでなく上下水道が壊滅するなど、本当に甚大な被害を受けました。避難所は1年以上経過してようやくすべて解消されましたが、仮設住宅での生活は続いています。また、生活環境の変化から特に子育て世代の人口流出が深刻で、残った地域の方々も深い不安を抱えています。

——そのような厳しい環境のなかで、現在は具体的にどのような活動をされているのですか？

主に「高齢者の方の見守り相談」や「コ

ミュニティの再建」そして「子ども支援」の3つに注力しています。実は今年、市から相談を受けて、使われなくなった葬儀場の建物を子どもたちが室内で思いきり走り回れる遊び場に改装し、オープンしたばかりです。地域の公園はまだ地割れなどがあり、外で安心して遊べる場所が少ないため、子どもたちが笑顔で元気に遊ぶ姿を見たときは「やってよかった」と心から思いました。

——私たちボーイスカウトに期待することや、一緒にできることはありますか？

珠洲市は過去にボーイスカウトの日本スカウトジャンボリーが開催された、皆さんにとっても思い出深い場所ですね。この素晴らしい大自然に囲まれていながら、被災した子どもたちは今、自然の中で遊ぶ機会を失っています。地方の子どもだからといって、みんなが自然に慣れ親しんでいるわけではありません。ですから、ボーイスカウトの皆さんが得意とする、自然の中でのアウトドア活動やプログラムを、ぜひ現地の子どもたちと一緒に企画・運営して連携できたら嬉しいですね。

——最後に、日本スカウトジャンボリーへ挑むスカウトにメッセージをお願いします。

大人が「危ないからダメ」と制限するのではなく、子どものチャレンジを妨げないことが成長には大切です。ボーイスカウトでの経験を通じて、「自分のためだけでなく、誰かのために行動できる人」がもっと育ってほしいと願っています。ジャンボリーでの皆さんの挑戦と成長を、私たちも応援しています！



2018年に珠洲市で開催された第17回日本スカウトジャンボリー

未来を照らす冒険に、あなたの力を。

100年以上の歴史をもち世界中で広がるボーイスカウトは、ボランティアの方々の熱意と地域の方々からのご寄付によって支えられています。当連盟では、子どもたちの活動を応援していただくために、さまざまなご支援の方法を用意しています。

寄付金（1回限り）【随時】

どなたでも、いつでもご寄付いただけます。クレジットカード決済、銀行振込などに対応。ジャンボリーやひとり親家庭支援への使途指定もできます。



維持会員【継続サポーター】

「維持会員」という制度として、個人・法人の方からの継続的なご寄付をお願いしています。1か月1,000円から可能です。現在4,000人の継続サポーターが登録しています。



遺贈【遺言による寄付】



遺言により、ご自身の財産の一部または全部を寄付することができます。公益財団法人へ遺贈いただいた財産は相続税の課税対象になりません。また、相続または遺贈により取得した財産を寄付いただいた場合には、一定の条件を満たすことでその財産には相続税がかかりません。

もったいない寄付・キモチと。



書き損じハガキなどを集め、ひとり親家庭支援に活用させていただきます。またブックオフとの提携により、中古本やゲームなどのリサイクルによる寄付も可能です。

ソフトバンクつながる募金 Yahoo! ネット募金

ソフトバンクの通信料お支払いとともに、またクレジットカード決済やVポイント、PayPayなどのご寄付を受け付けています。少額からお手軽にご支援いただけます。



PR 自動販売機【コカ・コーラボトラーズジャパン社】

特別デザインの自動販売機を設置することで、スカウティングをPRでき、さらに売上の一部が寄付金としてスカウト活動の支援に充てられます。



これらの他に、ジャンボリーなどの協賛、クラウドファンディング、被災地支援募金、災害ボランティア活動支援金としてのご寄付もごさいます。子どもたちの挑戦を支える誇りある仲間に — あなたも。

税制上の優遇 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟へのご寄付は、税額控除の対象です。



最大
約50%
の税控除

例えば10万円を寄付すると、最大で4万9000円の税控除になります！

所得税控除	住民税控除	実質負担額【最小】
3万9,200円	9,800円	5万1,000円

税控除には限度額があります。確定申告が必要です。

住民税控除は、お住いの自治体が控除対象として当連盟を指定している場合に限りです。



別枠での
損金算入
+
地方税も
減額

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟へのご寄付は、「特定公益増進法人に対する寄附金」として取り扱われ、一般の寄付金とは別枠で一定の限度額相当まで、損金算入限度額を計算することができます。

また、それに伴った法人税の減額によって、地方税も減額となります（損金算入限度額については、法人の所在地、資本金、所得の金額によって異なります）。

※詳しくは、お近くの税務署または都道府県税事務所、税理士などへの相談や国税庁ホームページ「チャットボット」や「タックスアンサー」をご利用ください。

ご寄付に関する
お問い合わせ



bokin@scout.or.jp



03-6913-6262

公益財団法人として信頼される ガバナンス体制に基づく健全な財務運営

当連盟の2025年度の総収支額は7.7億円となっています。

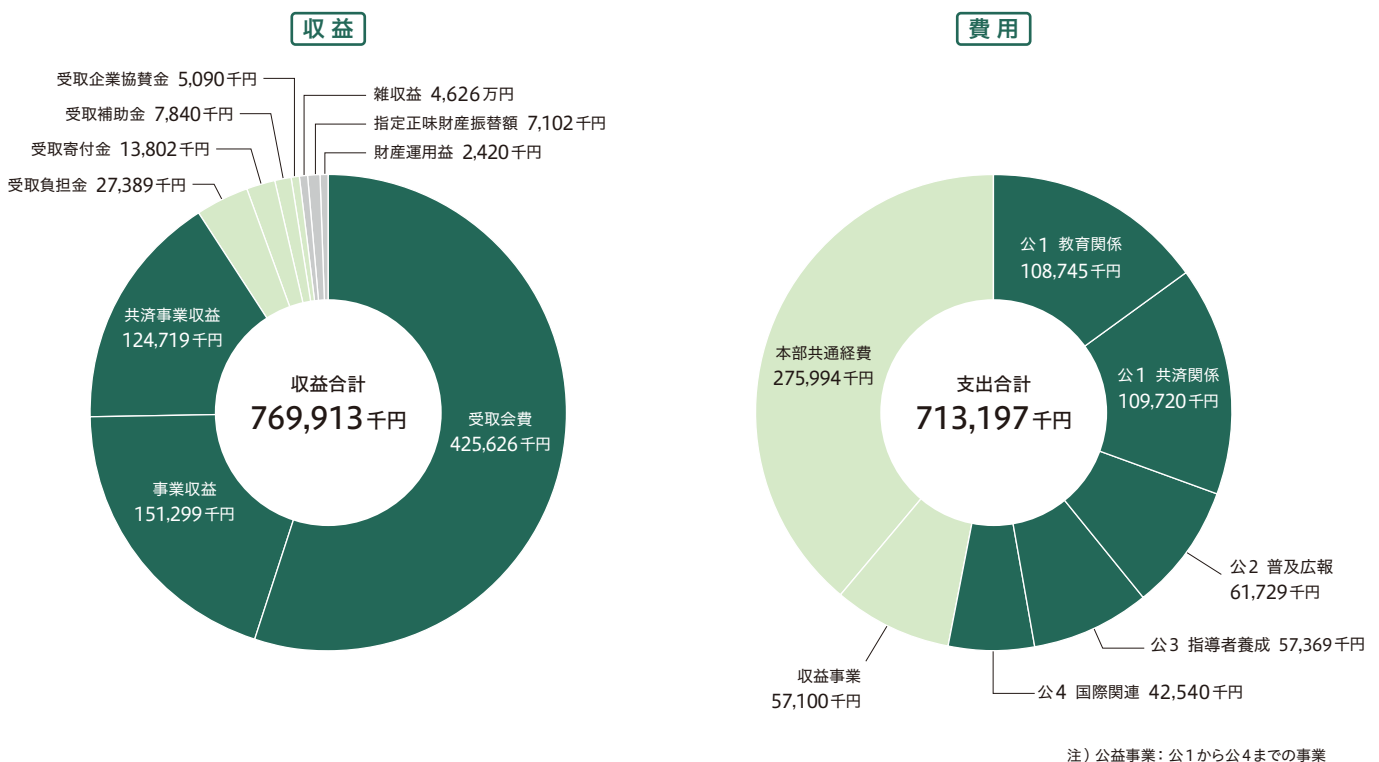
収入の基本的部分は加盟員登録料・会費で4.3億円（55%）です。その他主なものには、不動産賃貸・ブランド使用料・出版物収入など各種事業収入が1.5億円（20%）、共済事業収入1.2億円（16%）、補助金・寄付金等収入0.3億円（4%）となっています。

一方の支出については、公益事業全体として3.8億円（53%）を使用しております。主な内訳としては教育関係事業に1.1億円（15%）、共済事業に1.1億円（15%）、普及広報事業に0.6億円、指導者養成事業に0.6億円、国際関連事業など0.4億円となっています。事務局人件費や法人本部経費として2.8億円（39%）を要していますが、日本ジャンボリー開催目的の特定資産に0.4億円の繰り入れも行いました。

ジャンボリーなど大きな大会の準備費はもとより各種施設の営繕費など、持続可能な将来に向けた資金的備えもしながら、しっかりしたガバナンス体制のもと、収支相償の健全な財政運営に努めています。

昨今、加盟員からの登録料収入が減少傾向にあり厳しい財政状況が続きますが、「人と地球によりよい未来を」つくるべく、スカウト運動に賛同いただける企業や個人へ広く呼びかけ、新しいファンドレイジングにも取り組みながら、引き続き安定した財政を目指してまいります。

2025年度決算



全国から集まる仲間と、 一生モノの冒険へ。

ここでしかできない体験が、子どもたちをたくましく育てる。



NIPPON SCOUT JAMBOREE

2026.8.4-8.10

第19回日本スカウトジャンボリー
Supported by

プラチナスポンサー

Canon

Daiwa House®

peace winds

MUFG

世界が進むチカラになる。

ゴールドスポンサー

株式会社
旭商会仙台店



岡谷鋼機

Energia 一日も。百年も。
中国電力



未来を、ひろげる。
ひろぎんHD



両備グループ

第19回日本スカウトジャンボリーは、2026年度日本万国博覧会記念基金の助成事業として実施いたします



EXPO'70 FUND
(公財) 関西・大阪21世紀協会